

以上。

○議長（初村 久藏君） これで、小宮教義君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を11時10分からといたします。

午前10時51分休憩

午前11時10分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 11番議員、対政会の小島徳重でございます。

本日は、2項目、通告させていただいておりますので、一般質問に入ります。

その前に、今年の夏はいわゆる観測史上2番目と言われるような暑い日々が続きました。そして、対馬でもコロナが猛威を振るいまして、かかられた方々、それから、またその周りの家族の方々、それから、医療や介護にあられた関係者の方々は大変な目に遭われたと思います。そういう中で台風まで、また11号がやってきましたので、地域全体が元気が出ないような雰囲気でした。

そういう中で、元気が出る、そういうこと、皆さん、何か目に向けてと思いますけども、先ほど小宮議員はグローバルな視点から大リーグの野球の話がされました。私もスポーツが大好きでして、少しローカルに話を持っていきますと、同じ野球で今年度は上対馬出身の海星高校の宮原投手が大活躍して、私たちに元気を与えてもらいました。去年は長崎商業の松井君が活躍されました。こういうふう若い世代が頑張っている姿を見ると、私たちも、大変、エネルギー、あるいは、勇気を与えられる。そういうふう思います。

今日の質問も対馬市が少し元気を出すためにということで、財源の確保という視点でふるさと納税についてお尋ねし、そして、また未来を背負う子供たちの成長を支える学校の在り方として、コミュニティ・スクールということで2項目を挙げさせていただいておりますので、よろしくお願ひします。

1項目めは、ふるさと納税についてのお尋ねです。

1点目、対馬市も、返礼品制度を導入した平成28年度以降、ふるさと納税が増えてきました。この28年度以降の実績について説明いただき、そして、また、今後、財源確保、これがなされれば市長をはじめ明るい顔になっていく人もいますので、そういう意味で、今後、どういう取組を考えてあるかということでお尋ねしたいと思います。

同じふるさと納税と銘打っていますが、2点目としては、企業版ふるさと納税を、昨年度、

令和3年度から対馬市も取り入れて動き出しました。このことについては先般の行政報告で市長からとてもビッグなお知らせをいただきました。

このことも踏まえながら、今後、また増やすための取組については、市長もいろいろお考えがあつて、この前、トップセールスを含めて頑張りますという表明がありましたので、そのことをお尋ねしたいと思います。

それから、2項目めは、コミュニティ・スクールについて、これをお尋ねしたいと思います。

対馬市におけるコミュニティ・スクールの設置状況は、今のところ、佐須奈小中学校1校というふうにお聞きしておりますけれども、国の状況等を考えますと、今1校だけでいいのかなというのがありまして、恐らく市教委でもいろいろ計画立てて準備してあると思いますから、新しい教育長さんになられて準備が進んでいるかと思しますので、その辺りを御説明いただいて、今後、どういう計画の下で進むのかということをお尋ねしたいと思います。

以上、2点についてお尋ねします。よろしくお願ひします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 小島議員の質問にお答えいたします。

初めに、ふるさと納税についてでございますけれども、対馬市における返礼品に伴う納税制度につきましては、地場産業の振興につながるものとして平成28年11月より開始し、寄附金は、平成28年度の2,288件、4,791万8,000円、平成29年度は8,343件、1億7,957万4,500円と大きく増加いたしました。

以降、年々増加しており、令和2年度は1万3,624件、2億6,165万5,000円、令和3年度は1万4,589件、2億5,964万6,000円で、寄附金額は2年度よりやや減少しておりますが、件数では約1,000件の増となっております。

ふるさと納税の宣伝媒体及び寄附受付は6つのポータルサイトに委託し、市内の55の業者により369品目の返礼品を登録し、寄附を受け付けております。

返礼品としては、クエ鍋セット、サザエ、ウニ、イカの加工品など近海で捕れた魚介類、米、しいたけなどの農作物が件数的には上位を占めております。

また、高額なものとしたしましては、若田石硯、対馬産真珠、対馬ヒノキを使ったテーブルやサイドボードなどの家具の申込みがあつております。

今後におきましては、新たな返礼品として、対馬産あか牛や市内での体験ツアー、一定期間、数回に分けて返礼品を送る定期便等の登録に向け、業者と協議を進めてまいります。

受付の窓口となるポータルサイトにおいては、返礼品の写真やコメントなどの掲載内容、表示形式について魅力的な返礼品となるような編集を心がけ、返礼品の発送などについてもリピートしていただけるよう業者へのアドバイスやお願いを行ってまいります。

また、関東・関西方面の新聞やインターネットによる広告、都市部での各種イベントなどを通して広く周知・PRを行い、財源確保に努めてまいります。

次に、企業版ふるさと納税の実績及び寄附増に向けた今後の取組についてでございますが、まず、本市における企業版ふるさと納税の取組については、第2期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略における各種の人口減少対策事業を確実に実施するための財源確保の一つとして、令和2年度において、令和3年1月20日に地域再生計画の認定申請を行い、令和3年3月31日の第59回認定分として国の新規認定をいただき、令和3年度より取組をスタートしたところでございます。

本来であれば、令和3年度より本市にゆかりのある企業を中心に寄附金の確保に向け、企業訪問等を行う予定としておりましたが、コロナ感染症が拡大と収束を繰り返す中、なかなか思うような取組ができませんでした。

令和3年度は、そのような厳しい状況ではありましたが、海岸漂着ごみに対する市の取組へ共感いただき連携協定を結びましたアスクル株式会社様より、寄附金つきレジ袋の売上げの一部を継続的に寄附していただくこととなりました。

また、長きにわたり本市で事業を営んでいただいております金子真珠株式会社様や本市を視察された中で海洋ごみの状況や市の取組をはじめ、人材育成や循環型社会の構築を目指す本市のSDGsの取組に共感いただいたサラヤ株式会社様の3企業より、計230万463円の寄附をいただいております。漂着ごみ対策や高齢者への支援事業等に活用させていただいているところであります。

なお、本年度の現時点での実績状況といたしましては、本定例会冒頭の行政報告の際にも触れさせていただきましたが、本市北部沖の座礁船撤去に携わっていただきました御縁により、茨城県に本社を置く三国屋建設株式会社様及び本市出身の役員がいらっしゃるという御縁から、長崎市に本社を置く株式会社西海建設様より、合計1,200万円の寄附をいただいております。海岸漂着ごみ対策及び移住関連施策、対馬3高校の魅力化推進事業等に活用させていただくよう、本定例会の補正予算にも計上させていただいております。

また、企業版ふるさと納税ではございませんが、平成18年度に対馬市や舟志地区、ボランティア団体との間で連携協定を締結し、継続して、ツシマヤマネコをはじめとした対馬の生き物に優しい森づくりの取組を行っております住友大阪セメント株式会社様より本年度80万円を、またグループ会社であります株式会社SNS様より20万円をそれぞれ寄附いただいております。これまでの両社の合計額は560万円となっております。

今後も、コロナ感染症の状況を注視しながらではありますが、市ホームページなど、SNS等での発信はもとより、私が先頭に立って、対馬にゆかりのある企業をはじめ本市のSDGs等の

持続可能な取組に賛同いただける企業等へトップセールスを行っていきたいと考えております。

また、併せて対馬市福岡事務所との連携による福岡対馬会、また関西・東京の対馬会等、関連団体への周知・PR等を強力に進めることで、本市の地方創生推進施策、人口減少対策等の着実な実施のための財源確保に努めてまいります。

私のほうからは以上であります。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 小島議員の御質問にお答えいたします。

コミュニティ・スクールについてでございますが、お尋ねのコミュニティ・スクールの設置状況については、先ほど議員がおっしゃったとおり、現在、令和2年度に設置した佐須奈小中学校の1校となっております。

佐須奈小中学校では、学校運営協議会を開催し、地域や学校の共通の目標やビジョンの共有化、具体的な取組の検討等を行ってくださっています。

令和3年度は地域学校協働活動を中心に、延べ100名以上の方々に関わっていただき、嘉代子桜の植樹、佐護地区の看板制作及び設置等、工夫した取組をしていただいております。

次に、今後の見通しでございます。

今後は、各学校における学校支援会議を活用し、コミュニティ・スクールへの移行を考えております。各学校における会議体の統合や合理化などを念頭に、全ての学校での設置に向けて準備を進めてまいります。

まずは、令和6年度からの新たなコミュニティ・スクールの設置を目指し、各校管理職の先生方への説明を行い、令和4年度末までに、本市中地区または下地区から小学校2校、中学校2校の計4校を選定したいと考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 答弁ありがとうございました。

ちょっと順番は違いますけれども、納税関係は元気の出る話があった企業版のほうから行きましょうか。

市長からも説明もありましたし、おとといの行政報告でもありましたけれども、3年度は230万程度でとどまっていたけれども、今年度は超大型の寄附があったということで、一気に対馬市にとっては元気の出る話だと思っています。

このことについては、いわゆる建設業者、例を出していいならば、市長が出されましたので、西海建設さん、ここは、創業者である方が出身地である西海市に1,000万を寄附されたというふうに承知しております。

それと同額を、対馬出身の役員をしてある方、これは新聞報道等では建設業協会の会長を担われたという根々さんというふうに聞いておりますけども、この方の縁でということで、いわゆる創業者の方と同額を対馬市にもいただくということは大変貴重なことだと思っております。

その役員の方、これは、対馬、ふるさとに対する思いというのを強く持ってあって、どの時点でか、ふるさとに恩返しをしたいという気持ちがあって今回こういう運びになったというふうに聞いておりますが、その辺りの受け止め方でよろしいか、市長、伺いたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） そういった状況の中で、対馬市のほうに1,000万円もの多額の企業版ふるさと納税を納めていただくということになったと聞いております。

また、現、対馬出身の役員の方からのお話によりますと、亡くなられた先代の社長さんのほうも、ぜひ対馬市のほうに企業版ふるさと納税をお願いしたいということを常々申し上げていたというようなことも聞いております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） そういうふうに先代からの伝えがあってということですが、そういうことで、対馬出身の根々さんという方ですかね、その会社にいかに貢献してあったかということは私たちが推測するわけですが、市長答弁の中でもおっしゃったように、対馬出身の方々は島外にはたくさんおられるわけですね。

自分たちの世代を見ても中学・高校を卒業した時点で対馬に残った人間は大体3分の1ぐらい。多い学年でも半分も残っていないですけど、そういう方々の中には、今回は特異な例に類すると思いますが、それと同じような思いを持ってある方はたくさん全国におられると思います。

私が令和2年の12月の一般質問のときに市長に「企業版を取り入れましょうよ」と言って、市長が「ああ、わかりますよ」ということで動き出したんですけど。

ぜひ、この制度、市長がおっしゃったように、いろんな広げ方があると思いますけど、これは、今、全国的にも一般的な個人のふるさと納税以外に新しくこの制度が9割控除というのですぐ動き出しています。

全国的な情勢も市長はつかんであると思いますけども、その辺りで全国的にも幾つか例を見てみました。そうしますと、2年度から3年度にかけて全国でも獲得額の大きいところは何十億単位で動いているというふうに聞いています。

一番大きいところは静岡県の裾野市ですね。これは富士山の麓にある市ですけどね。そういうところの例もありますから、ぜひ全国情勢をつかんでいただきながら頑張ってくださいなと思っています。

タブレットには載せていなかったんですけど、新聞記事、ちょっとちいちゃいんですけど、

「全国企業版ふるさと納税倍増」というふうに出ています。これはタブレットに載っていません。

これは今日付け加えた分ですからタブレットに載っていないんですけど、こういうふうには、全国でもこちらに動きが強まっているということですから、市長の決意を聞いて大変うれしく思っておりますので、頑張ってくださいなというふうに思います。

今度、一般のふるさと納税のほうに移りたいと思います。

一般のふるさと納税についても、市長の説明があったとおり、ここ数年の動きを見ますと、元年度が2億2,300万、2年度が2億6,000万、3年度が2億5,900万ということで、ほぼ大体2億数千万のところに移っているというか、対馬市は横ばいの状況です。全国的にはどんな情勢か、市長、つかんであると思いますが、いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 全国的には、たしか一番多いところで60億近く集めた自治体もあったのではないかなというふうに新聞報道等で見えておりますが、ふるさと納税を多額に集めている自治体を見ますと、肉関係、和牛関係がものすごく多いなということです。

また、地域でいろいろな企業等の製品の活用をされてあるというようなことで、今後、対馬市といたしましても、対馬あか牛を大いにPRしていきたいというようなことで、今、指示を出しているところであります。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 全国的な情勢も市長は踏まえながら対馬市も動きを取ろうとしているということで、今、あか牛という具体的なものも出てきました。

先ほど市長答弁の中にもありましたけど、今、対馬市で一番人気のあるのは先ほど言われたように、クエですね。対馬では、私もアラと言っていますからアラという言葉で言わせてもらいますが、アラ鍋関係というのが一番対馬では多い。

ランキングがありますけども、市長、お手元に資料がございますか。10位までのランキングを出してみます。10位までのランキングを見ましたら10位の中にアラ鍋関係が5つですよ。そして、あとはイカとサザエとアナゴと来て、海のもの以外は、しいたげが、かろうじて、何番目ですか、10番目ですか、入っていると。これは20番まで拾っても9つはアラ鍋関係です。そして、あとは、言われるようにイカ、それからサザエ。いわゆる海の幸。全国の人是对馬の海の幸に目を向けているということなんです。

そこで、あか牛ももちろん強調していただきたいし、アナゴも海のものでもありますし、ありますけども、その辺りの戦略として見たときに、ポータルサイトを6つ開いてあると言いますが、どのサイトを見ても対馬のところで頭に来るのはほとんどアラ鍋の関係ですよ。その辺りのところの捉え方、市長、全国の情勢等を見ながらどうお考えか。

アラがこんなに大勢を占めていて人気商品であるということ。全国の紹介したサイトを見ていただいたら、全部、幻の魚クエ、それから自然の恵み云々という言葉で、アラがずっと上に出ているんですよ。このことをどう捉えるかということ。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今、対馬は、確かに、アラ鍋セット、クエ鍋セットが人気商品となっておりますけども、温暖化の影響もあるものというふうに私も感じておりますが、他の自治体においてもアラ鍋関係を出してきている自治体も増えてきているということでもありますので、このPRのやり方をもう少しいろいろと研究していかなければならないのかなというふうに感じております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 私は、今、アラのことを例に挙げて強調したんですけど、PRの仕方という言葉が、市長、出ましたけど、その中で海の幸に目が向いているということで、全国で2番目3番目に返礼品で稼いでいるところは、北海道の紋別市と釧路ですね。これは、みんな、いわゆる魚介類です。それから見ても対馬市が全国で、ふるさと納税で注目を引くためには海ということをぜひ中心に考えていただきたいと思います。

アラの売上げを見てみますよね。2億5,900万のうちアラだけで2,100万上がっていますよ。件数でいっても1万4,589件のうちアラだけで3,740ですね。4分の1はアラ関係の鍋です。だから、その辺りの売出し方ということ。

その売出し方は、6つのポータルサイトを開いてありますけども、それだけで、それから、今、市長がおっしゃったようなPRの仕方だけで十分やっていけるかどうかということで、売上げを伸ばしている県内とか他のところの様子を聞きますと、ポータルサイトに任せるだけでなく、ふるさと納税専門のプロモーションをやっている企業があるんですけど、長崎県内にもそれで業績を伸ばしている会社がありますけど、御存じですか。市長じゃなくても、部長でも、農林水産部長でも結構ですけど。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） ふるさと納税専門のコンサルというところかどうかの確認まではできませんけども、私どもも、ふるさと納税の専門のコンサルといたしますか、そういったところから、年に1回、各事業者回りをしてPRの仕方とか商品の開発とかの指導に回っております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 長崎県内の自治体も21のうち13のところは委託しているところで、スチームシップという会社は御存じですか。分からない。それは残念ですね。どうぞ。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） たしか、波佐見町か川棚町。波佐見町やったですかね。そこにそういう専門の会社があって、波佐見町がそこに委託したということで、たしか6億7億ぐらい急激にアップしたという報道は見ております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 今、市長のほうがおっしゃったスチームシップという波佐見に立ち上がっている会社ですよ。3名から始まって今もう90名ぐらいの社員を抱えて、波佐見町に本社を置いていますけども、県内の自治体もそこに委託しているところが13。そこに委託しているところが県内でも売上げをぐっと伸ばしています。

波佐見町は、20億、今、稼いでいますね。対馬市は、海産物を中心に、市長がおっしゃったあか牛あるいはアナゴとかいろんなものも含めて、しいたけも含めて、そういうものも含めて、大体、市長の考えではどれぐらいをふるさと納税で返礼品を出したいというふうにお考えか。その辺りの目標というのがあったら教えてください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まだ私も具体的に幾らぐらいということは申し上げることはできませんけども、心配しておりますのが、今現在、ふるさと納税に協力していただいている事業者の皆さんがたしか55業者ですかね。

こちら辺をもう少し増やしていかないと納税額のアップにはつながらないという思いを持っておりますので、そういったところも含めて、今後、研究してまいりたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 市長は具体的には数字を挙げられませんでしたけど、県内の自治体の実績を見ますと、そのうちの情報網に詳しい方に聞いたら、対馬市は宝がいっぱいあると。もったいないと。そういうことをおっしゃいました。

今、私が具体的に名前を出した波佐見のスチームシップ、念のために、職員の方でもいいですから出張されてでも。あるいは、そこが出向いてこられると思いますよ。そして、いろいろノウハウを仕入れられたらどうでしょうか。そういうことを一応提言をしておきます。

そして、アラにこだわるようですけど、これは農林水産部長に関係あるんですけども、今、これは対馬でも毎年放流しているみたいですが、アラの人气が高いもんだから漁師さん方がみんなそれを捕るために、いろいろ、縄とか一本釣りとかをやられるからサイズがちっちゃくなっているということを聞いています。

もっと放流を増やすべきだなということも、一応、答弁は要りませんが、提言しておきますので、情報を集められて、できれば、対馬市女護島にある栽培センター、ここは、市長、真珠と



か、それからアワビやサザエとかを中心に貝類が中心だということでしたけども、施設を改良すれば魚類のふ化もできるし、そうすれば放流ももっと増えるんじゃないかなということを経験して申し上げておきたいと思います。そして、いろんな工夫の仕方でも市長が申し述べられましたことをぜひ実施に移していただきたいと思います。

そして、全国の中では自動販売機でふるさと納税を実施してあるところもあります。この情報はあるでしょう。その辺りも、イベントをしたときとか、あるいは空港とか船着き場とかに置くことによって実施しているところも全国でかなり広まっています。その辺りも、一応、情報として、提言、お伝えしておきますので。

一応、ふるさと納税関係は、財源確保という点で貴重な施策だと思いますので、創意工夫をしていただくことを願って。

最低、市長、今、2億五、六千万ですから、ここ二、三年のうちに5億。そして、将来的には10億ぐらいは目標にしていきたいと思います。

それだけの能力は、対馬のいわゆる第1次産業、海あるいは市長が言われたいろんなしいたけを含めて、ほかも含めて10億は稼げると思います。ぜひ頑張ってください。

教育長、お待たせしました。

教育長、今、お答えいただいた中で、コミュニティ・スクールということで、これは、今、1校だけというのは、教育長になられて三、四か月ですけど、教育長さんは、市教委にもおられたし、県教委にもおられたし、この制度が今1校というのはどう受け止めてありますか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） お答えします。

当初、コミュニティ・スクールについては閣議決定において日本の全ての学校にということが目標でした。2019年に法の改正があって、現在、努力義務という位置づけになっております。

長崎県では2019年に制定した第3期長崎県教育振興基本計画の中で、令和5年までに県内100校の設置を今目指しているところです。

令和3年度末現在で70校、そのうち対馬は1校ということですから、対馬市の県内に占める割合は低いというふうに認識しております。

ちょっと長くなりますが、先ほど佐須奈小中学校を申し上げましたけども、令和2年度でしたので、ちょうどコロナ禍に入った段階でした。本来であればもう少し早く準備を進めて、現在でも2校3校という状況が望ましかったんですが、そういう状況もあり、現在、停滞しているという状況です。

今後、先ほど申し上げましたとおり、最終的には全ての学校ということで目指していきたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 国の大きな文科省の指導、あるいは、内閣全体の方針とかというのは、教育長、御存じですよ。中教審の答申を受けて法改正がありました。地教行法。そして、閣議決定があったのが平成30年ですよ。

その中で国の第3期の教育振興基本計画ができましたね。この中でうたっていることは、2022年度までに全ての公立学校において、いわゆる学校運営協議会制度を導入することというのがあります。十分、御存じやし。そして、そのことを受けて対馬市の教育委員会でも平成30年に永留前教育長がこういう発言をしてあります。永留教育長さんが教育委員会の中で発言された内容は「対馬市も本格的に取り組んでいかなければいけない」ということを30年の時点で言っているんです。

そして、私が議会の一般質問で令和2年の12月のときに質問をしたときに、このとき、教育長は欠席だったんですけど、部長と教育長職務代理者が答弁された中で「対馬市も、今後、順次整備を進めていきます」と言われたんですけど、そのときに佐須奈が1校だけということになっただけでも、それから先、一向に進んでいないですね。このことはもう少ししっかり受け止めていただかないといかんと思うんですよ。

今、教育長がおっしゃったのは、4年度までに小2校・中2校という。それはそれで進めるということの意思表示はあったからよしとしたいと思いますけど、それでいくと、全部の学校に入るまでに、私、よく聞き取れなかったところがあったんですが、何年を予定してありますか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 先ほど申し上げましたけども、まずは取りあえず小中2校という目標、それぞれ2校という目標を立てておりますけども、全ての学校というところの数値目標は現在検討中でございます。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 長崎県は全国の中でもコミュニティ・スクールの導入は進んでいないほうなんですよ。正直に言って。進んでいる県は、ほとんど全部に近いとか、あるいは、半分以上とか3分の2近くとか行っているところもあります。

それから、都道府県で差があるし、また同じ県内でも自治体で少し差がありますけども、それでも、対馬市の場合、これを進めることは対馬市の総合計画とか地域づくりとかの中で果たす役割からいっても重要なことなんですよ。

市の総合計画の中にもこのことは触れてあります。「ひとづくり」というところでコミュニティ・スクールの推進というのが挙げてあります。そして、教育振興計画にもコミュニティ・スクールを進めていくということがあります。そういうことも踏まえた上で、教育委員会はぜひ計

画を立てていただいて順次進めてください。

そのために予算もかかるんですね。そのための予算措置、これは交付税で措置されるようになっていますが、そのことは部長は御存じですか。

○議長（初村 久藏君） 教育部長、八島誠治君。

○教育部長（八島 誠治君） 設置に向けた取組としての交付税措置というところはあるかと思うんですけども、なかなか予算というところで明確な数値というのはつかんでいないところでございます。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） コミュニティ・スクールそのものの仕組みとか、そのこともなかなかなじみが薄いところもありますので、ここにパネルを出していますけども、これを進めるためには教育委員会だけとかでは駄目なんですね。

これを見ていただくように、地域ぐるみで今までは学校を支援するという考え方だったんですけども、地域と学校が一体になって学校をつくるというのがコミュニティ・スクールの趣旨ですよ。そうすることによって子供が通う学校は地域ぐるみで育てるという観点で行って、必ず、組織として、ここに挙げてありますけども、地域学校協働本部というのを立ち上げなきゃいけないんですよ。教育委員会でこれを立ち上げるようになっているんですけども、その検討はされていますか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 先ほど長崎県は少し遅れているとおっしゃいましたけども、これには理由がございまして、長崎県は全国に例がない学校支援会議という組織がこれまでございました。

この組織が、いわばコミュニティ・スクール、機能としてはコミュニティ・スクールよりは弱いんですけど、同等の機能で、地域の方が学校を一生懸命支えてくださるという組織が既にございました。これもあって新たにコミュニティ・スクールを導入することは必要ないのではないかという考え方が当初はございました。

しかしながら、議員が御指摘のとおり、コミュニティ・スクールになるとさらに地域と学校が密接な関係になると。地域とともにある学校づくりが進むということで、今現在、長崎県も懸命に導入を進めているところでございます。

先ほどありました地域学校協働本部については、長崎県としては学校支援会議がこれに代わる組織としてこれまでカウントしてきた経緯がございました。しかしながら、本来はコミュニティ・スクールの中でつくるべきものですので、議員、御指摘のとおり、今後、整備をしてまいりたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 支援会議を土台として育てていくということで一応お聞きしました。支援会議では駄目なんですよということは、十分、御理解していると思います。

そこで、協働本部を立ち上げる教育委員会の中で担当部署はどこになりますか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 正直に申し上げて、現在、まだ検討中でございますが、関連する課としては生涯学習課と学校教育課が関連してくると思っております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 心配なことが1つ私はあったんですよ。今年度の事業計画を5月ぐらいに部長からいただいた中で、生涯学習センターの統合を検討するという項目があったんですよ。この組織を立ち上げるのは、学校教育課じゃない、生涯学習課がこの組織をつくらないと地域を巻き込めないわけですから。

今でさえも生涯学習関係が人員が減っている中でこの共同体の本部を動かすとしたら、教育委員会、このコミュニティ・スクールは、十分、機能できないと思います。

これは市長にも聞いておいてほしいんですけども、いわゆる生涯学習関係の機能を縮小するようなことはストップしていただきたい。そして、これが学校を通して対馬の地域づくりをするわけですから、ぜひ、その辺りの御理解は、十分、市長部局もしていただきたいと。

そして、そのことを、いつも言いますけれども、総合教育会議等で十分に練り上げていただきたいと思えます。それをお願いしておきますけど、市長、いかがですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今おっしゃったように、今後の総合教育会議等でいろいろと、教育委員さんはじめ、教育長、そして、また学校、教育委員会部局等と一生懸命に研究してまいりたいと思えます。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） ありがとうございます。

ぜひそういう意味でも、ふるさと納税で財源を確保されたら子供たちのために、子供を核とした地域づくりのために力を入れていただけていただきたいということをお願いします。

私がこういってコミュニティ・スクールを強調したのはなぜかという、対馬の教育の今の状況を見たときに、どうしても、このこと、コミュニティ・スクールを、ぜひ早く進めていただきたいというのは理由があるんです。

佐須奈の小学校・中学校が今受けていますけれども、佐須奈の小学校・中学校からはコミュニティ・スクールをやってどうだったかというふうに報告を聞いてありますか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 先ほど申し上げたとおりコロナ禍もあってなかなか積極的な地域学校協働活動というところが進まれているんですけども、先ほど申し上げました桜の木の植樹等、積極的な活動が行われていると聞いております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 教育長は十分このことは御存じだと思いますけど、私、佐須奈小中学校の校長さんに聞きました。そうしますと、やってよかったとおっしゃいました。学校が変わってきたと。地域との結びつきが、今までは点だったけども、点が線になってきたと。地域の方々为学校の事情をよく分かってくださって。

今、点が線になってきて、面になるようにしたいと思っていますと。そして、学校としては、地域と一緒に、支援じゃなくて協働で学校をつくり上げていくとすごく楽しみですよということをおっしゃいました。

私、学力のことを一回申し上げましたけど、この前、評価のときに。対馬市の子供たちの評価は全国の学力調査と比べると数ポイントずつ低いというのが実態ですから、それがいい例です。

これは全国学力調査の折に、お茶の水女子大学が分析した結果です。それを取り入れたら学力がやる前と比べたら全部数ポイントずつ高いと。これは、教育長、お分かりいただけだと思います。

こういう実績を踏まえて、国も、22年度までに、今年度までに全部の学校をしましよとよと言っているんですから、そのことを踏まえて強気に進めていただきたいと。そのことを申し上げて終わりたいと思います。

以上です。

○議長（初村 久藏君） これで、小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩とします。再開は1時5分からといたします。

午後0時01分休憩

午後1時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

報告します。波田政和君から早退の届出があつております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。2番、陶山荘太郎君。

○議員（2番 陶山 荘太郎君） 皆さん、こんにちは。会派自公・協働、2番議員の陶山荘太郎です。

この夏は、安倍元総理が選挙演説中に凶弾に倒れ、また、今月8日には英国のエリザベス女王